



今井館ニュース

第 58 号

Imaikan News

2024 年 4 月 30 日発行

「神の御前で、あなたがたのことで喜びにあふれています」

山本 浩



2023 年 11 月 6 日 今井館聖書講堂での歓迎夕食会

「わたしたちは、神の御前で、あなたがたのことで喜びにあふれています。この大きな喜びに対して、どのような感謝を神にささげたらよいでしょうか。」

(テサロニケの信徒への手紙 1 3 章 9 節 新共同訳)

2023 年 11 月 3 日から 4 泊 5 日の日程で韓国の主に在る兄姉 11 名が、韓国聖書信友会、日韓青年友和の会を通じて訪日された。5 日間御一緒し、皆様が神様を喜んでおられることを肌で感じることで感謝であった。隣国に、主に在る兄姉がいらっしやって、親しくさせていただいている。これだけでも私にとっては十分すぎるほど勿体ないことでありお恵みであり喜びであり感謝である。

「クジラの喧嘩で海老の背中が割れる」とは韓国にある諺である。韓国では、大国の利害が産んだ朝鮮半島分断について語られる際にもよく用いられている。分断後、韓国で次の歌が作られ、北朝鮮でも歌われてきた。「我らの願いは統一、夢にも願いは統一・・・」。ところが北朝鮮ではその後禁止となり、先ごろ統一政策が放棄された。20 代はじめに内村先生の講話を今井館で聴かれ、梧柳洞集会を始められた宋斗用（ソン・

ドゥヨン）先生には、北朝鮮の主義主張を憂慮しての願いがあった。「ああ！それゆえに、私は何よりも先に最も願うことは、実は統一よりもその前に、生きていたもう神の全能の手が働かれることを願い、望み、待望する。切にお待ちしてやまない」（『韓国無教会双書』第 8 巻 145 ページ 宋斗用著 曹享均訳）。20 年前のことではあるが、宋斗用先生の後をついで、梧柳洞集会主宰者となられた李璿求（イ・ジング）先生に、韓国の青年たちの間では南北統一を望まない人が増えているのではないのでしょうか、とお尋ねしたことがある。先生からは次のようなお言葉があった。「統一を望まない韓国人はいない。韓国人はみな統一を望んでいる。だが、神様だけが統一出来る」。お二人とも、悲しく凄惨な同族同士の戦いである「6.25（ユギオ）動乱」（日本でいう朝鮮戦争）を体験し、北朝鮮との統一は神様の御手によるしかないということを感じておられた。お二人の願いに祈りを合わせたい。

40 年ほど前、木曾福島で、「韓国梧柳文庫を支援する会」の 10 周年記念会が開かれた。主催者は杉山直さんと、出席者の中には、韓国被爆者救済活動をしている方もおられた。韓国の方々に謝罪をしている方たちの存在を初めて知った。10 年後、杉山さんの謝罪の思いを引き継いで、日韓青年友和の会が発足した。

神様の御許しを頂ければ、次回は、日本から訪韓し、韓国の兄姉と御一緒にキリストの福音を喜び、神様のみ名を讃美させていただきたい、と願っている。

(やまもと ひろし
日韓青年友和の会・キリスト教待晨集會)

目次

表紙・巻頭言

目次・内村鑑三の言葉

表紙について・発行趣旨.....2	豊田江美さん追悼.....11
2023年度内村鑑三記念キリスト教講演会 (東京).....3	学校・学寮だより.....12
2023年度内村鑑三記念キリスト教講演会 (名古屋).....5	各地からの報告.....15
2023年度内村鑑三記念キリスト教講演会 (大阪).....7	定期集会・特別集会のお知らせ.....16
新井明先生の思い出.....9	事務局便り.....19
新井明先生を偲ぶ.....10	維持会員募集のお知らせ・編集後記.....20

内村鑑三の言葉

神の約束としての基督教

聖書は約束の書である、故に旧約と云ひ、又新約と云ふ、旧約はキリスト降臨の約束であつた、而して新約はキリスト再臨の約束である、旧約はナザレのイエスの出生と生涯と死と復活とに由て充たされた、而して新約はキリストの再臨と新エルサレムの実現と万物の復興とに由て充たさるべくある

選者注：『聖書之研究』188号（1916年3月）、『内村鑑三全集』22巻、210頁。「創世記」のエデンの園に発した一本の河は園を潤しつつ4つの支流の源流をなし、旧新約聖書を一条の希望の水脈として底流し、「ヨハネの黙示録」では新しい都の大通りの中央を流れる生命の水の河となる。その両側にはいのちの木が繁り、12種の実を結び、風に揺れる葉は諸国民を医す。再臨信仰は、神による、樂園喪失—樂園回復—宇宙の完成の約束としてつづいている。

（選：NPO法人今井館教友会監事 小林孝吉）

○表紙について

『今井館ニュース』第58号巻頭言は、日韓青年友和の会で長年お働きになっている山本浩さんが、韓国の私たちの信仰の友、韓国聖書信友会との交流について、お書きくださった。昨年訪日された韓国の友人たちは、今井館に立ち寄られ、聖書講堂で歓迎夕食会が開催された（写真）。

70有余年に亘って分断されたままの隣国の統一への願いと祈りに、私たちも心を合わせたい。

(C.Y.)



『今井館ニュース』発行趣旨

NPO法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三（無教会の提唱者）及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする（定款第3条）。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする（定款第5条3項）。